

飼料作物－飼料用とうもろこし－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						すす紋病		
1	チルト乳剤25		普	プロピコナゾール	3	○		

飼料作物－飼料用とうもろこし－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						タマナヤガ	アワノメイガ	ツマジロクサヨトウ
1	エコマスターBT	抑制	普	BT	11A	－	○	－
2	サブリーナフロアブル	抑制	普	BT	11A	－	○	－
3	ジャックポット顆粒水和剤	抑制	普	BT	11A	－	－	○
4	ダイアジノン粒剤5		普	ダイアジノン	1B	○	－	－
5	デルフィン顆粒水和剤	抑制	普	BT	11A	－	－	○
6	トアロー水和剤CT		普	BT	11A	－	○	－
7	パダンSG水溶剤	抑制	劇	カルタップ	14	－	○	○

飼料作物－飼料用とうもろこし－その他

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名						
						カラス	キジ	キジバト	スズメ	ハト	ムクドリ	苗立枯病
1	キヒゲンR-2フロアブル		普	チウラム	F:M3	○	○	○	○	○	○	○

11-(1) 飼料用とうもろこし

病害虫防除

病害虫名	防除方法	参考事項
すす紋病	は種前 1. 抵抗性品種を栽培する。 2. 連作を避ける。 3. 夏期以降に発生しやすいので、遅播きを避ける。 4. ほ場の排水性を改善する。 5. 窒素、カリを中心とした十分な施肥管理。 生育期 発病初期に適用薬剤を散布する。 収穫後 収穫残さを除去、またはすき込みを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・冷涼地での代表的な葉枯性の糸状菌病で、冷涼多湿条件で発生が増加し、大発生するとほ場全体が枯れ上がるほどの被害が出る。 ・葉に黄褐色～灰色、紡錘型、長さ3～10 cmの大型病斑を形成する。 ・絹糸抽出期以降に発生することが多い。
ごま葉枯病	は種前 1. 連作を避ける。 2. 深耕を行い堆肥、リン酸肥料を増肥する。 3. 未熟堆肥の多投を避け、熟度の進んだ堆肥を施用する。 4. 早播きによる早期収穫を行う。 5. 抵抗性品種を栽培する。 生育期 肥料切れを避ける。 収穫後 収穫残さを除去する。	<ul style="list-style-type: none"> ・葉及び葉鞘にオレンジ色～黄褐色、楕円形、長さ5～20 mm、幅2～5 mm程度の病斑を多数形成する。 ・多湿な暖地において夏期以降に多発する。 ・肥切れや密植は発病を助長する。
根腐病	は種前 1. ほ場の排水性を改善する(停滞水に注意)。 2. 未熟堆肥の多投を避け、熟度の進んだ堆肥を施用する。 3. 早播きによる早期収穫を行う。 4. 連作を避ける。 5. 抵抗性品種を栽培する。 生育期 被害株は速やかに切り取って焼却する。	<ul style="list-style-type: none"> ・根が褐変し、黄熟期を過ぎると一気に枯れ上がり、全体が黄色くなる。 ・雌穂が垂れ下がるのが特徴。 ・イネ科の作物及び雑草に寄生し、感染源となる。
苗立枯病	は種前 1. ほ場の排水性を改善する(停滞水に注意)。 2. 種子に薬剤の塗沫処理を行う。 3. は種を遅らせる等、低温条件下で発芽させない。	<ul style="list-style-type: none"> ・出芽時の多湿条件で苗が枯死する。 ・3～4葉期の幼苗期までに萎凋枯死することが多い。
モザイク病	は種前 ウイルス伝搬源のアブラムシの繁殖を防ぐため雑草を早春に除去する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルスに感染した畦畔雑草が伝染源となり、アブラムシ類によって媒介される。 ・まれに種子伝染により発生する。
黒穂病	は種前 1. 多発した場合には3年以上の長期輪作を行う。 2. 窒素肥料の多投入を避ける。 3. 抵抗性品種を栽培する。 生育期 発病部位を見つけたら胞子が飛散しないうちに除去し、適正に処分(焼却)する。罹病個体を堆肥化しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・外部は白色で中に黒い粉の詰まったゴール(肥大組織)を形成し、葉・節・穂に発生する。 ・地面に落下し、土壌中で越冬した胞子が翌年の伝染源となる。ゴールが成熟し、破れて空中に飛散した胞子が二次伝染源となる。 ・感染は湿潤条件下で多い。

病害虫名	防除方法	参考事項
紋枯病	は種前 1. 深耕を行い感染源を埋没させる。 2. 密植を避ける。 生育期 発生した葉鞘を剥離する。	<ul style="list-style-type: none"> ・高温多湿で発生しやすい。 ・病気が進むと表面が滑らかで褐色の菌核をつくり、地面に落下して翌年の感染源となる。 ・周縁部褐色、中心部灰白色の雲形斑を形成する。
タマナヤガ (ネキリムシ)	は種前 1. 秋期に雑草の防除を行う。 2. 初期生育の早い品種を栽培する。 発生初期 薬剤散布はは種後1ヵ月以内に行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・発芽の不揃いや幼苗の萎れは発生の可能性を考える。 ・発生後の被害株の根本に幼虫が潜んでいるので早期に発見して駆除する。
アワノメイガ	は種前 早まきによる早期収穫を行う。 発生時 適用薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> ・関東地方では年2~3回発生する。 ・は種期が遅いと被害が多い。 ・幼虫の食害部はカビが侵入しやすくなるのでかび毒蓄積や汚粒発生等の品質低下を招く。
ツマジロクサ ヨトウ	生育期 定期的にほ場を巡回し、早期発見に努める。 発生時 1. 適用薬剤を散布する。 2. 収穫可能な場合は直ちに収穫・調製を行う。 収穫後 発生ほ場の土壌中にはさなぎが残存している可能性があるため、刈り取り後は速やかに耕起して残存害虫を駆除する(複数回が望ましい)。	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤を散布するときは、幼虫の活動が活発になる早朝に、散布することが望ましい。 ・幼虫は軟らかい葉を好んで食害する傾向があるため、特に生育初期は注意する。 ・とうもろこし、ソルガム、野菜類など広く農作物を食害し、生育初期の食害では被害が甚大になるため、特に注意して発見に努める。
鳥害防止 (カラス、キジ、ハト、キジバト、スズメ、ムクドリ)	は種前 種子に薬剤の塗沫処理または粉衣を行う。	

雑草防除

- ・ 碎土、整地は丁寧に行い、種子が露出しないように覆土はできるだけ丁寧に行う。
- ・ 散布薬剤の飛散、あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることのないように十分注意して散布する。
- ・ 周辺の作物や構造物等にかからないように注意する。
- ・ 皮膚に付着しないように注意する。付着した場合には、直ちに石けんを使用し水で良く洗い流す。
- ・ 使用后、タンク、ホース、ブーム、ノズル内に薬液が残らないよう散布器具等はよく洗浄し、他の用途に使用する場合は、十分に注意する。

除草剤名	適用雑草	使用方法 (適用土壌)	使用時期	使用上の注意
アルファード液剤	一年生雑草	雑草茎葉散布 又は全面散布	とうもろこし 3 ～7 葉期(但し、 収穫 45 日前ま で)	<ul style="list-style-type: none"> ・ イヌホオズキ、シロザ、イチビ、オオブタクサなどの問題雑草に卓効を示す。 ・ 飼料用とうもろこしの各品種に影響が少なく高い選択性がある。 ・ 散布時の展開葉に薬害(黄斑)を生じる場合があるが、その後の生育・収量には影響しない。 ・ 雑草生育期に有効だが、雑草が大きくなりすぎると効果が劣ることがあるので、時期を逸しないよう均一に散布する。 ・ 散布直後の降雨は効果を低下させるため、天候に注意して散布する。
エコトップP乳剤	一年生雑草	全面土壌散布 (砂土を除く全 土壌)	は種後発芽前 (雑草発生前)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発芽後の雑草に対しては効果が劣るので、雑草発生前に時期を逸しないように散布する。 ・ 碎土、整地及び覆土は丁寧に行う。覆土深は2～3 cm以上とする。 ・ 散布直後の多量の降雨は薬害を生じるおそれがあるため天候に注意して散布する。 ・ 蚕に対して毒性があるため、周辺の桑葉にかからないよう注意する。 ・ 砂土では使用しない。
ゲザノンゴールド	一年生雑草	全面土壌散布	は種前(雑草発 生前) は種後発芽前 (雑草発生前) 生育期(とうも ろこし 2～4 葉 期)	<ul style="list-style-type: none"> ・ イチビ、アレチウリ、ヨウシュチヨウセンアサガオなど強害帰化雑草にも有効である。 ・ 碎土、整地及び覆土は丁寧に行う。 ・ は種後、乾燥が続くと予想される場合は、除草効果が安定する生育期(とうもろこし 2～4 葉期)に散布する。 ・ イチビの防除を行う場合には、所定量の範囲内で多めの薬量を散布する。 ・ 土壌が極端に乾燥している場合、所定量の範囲内で散水量を多めにして丁寧に散布する。 ・ 極端な過湿土壌及び砂質土壌で使用する場合には、生育を抑えることがあるので少なめの薬量を散布する。 ・ 砂土では使用しない。 ・ 蚕に対して影響があるため、周辺の桑葉にかからないよう注意する。 ・ 当年及び翌年の水稻栽培をさける。

除草剤名	適用雑草	使用方法 (適用土壌)	使用時期	使用上の注意
ゲザプリムフロアブル	一年生雑草	全面土壌散布 及び雑草茎葉 散布 (砂土を除く全 土壌)	は種後～とうも ろこし2～4葉期 まで	<ul style="list-style-type: none"> ・畑作一年生雑草全般、ツクサには特に土壌処理で効果が大きい。 ・茎葉部からの吸収も一部みられ、幼少雑草に対しても効果を発揮するが、雑草の発芽直前から発芽揃期までの散布が最も効果が高いので、できるだけ早めに散布する。 ・イネ科雑草には効果が不十分な場合があるので、それらが優先するほ場での使用は避ける。 ・多年生・深根性の雑草には効果が期待出来ない。 ・覆土は丁寧に行い、覆土深は3cm程度にする。 ・砂土、水はけのよい土壌では薬害を生じる恐れがあるので使用しない。また雨の多い時期、場所での使用は避ける。 ・蚕に対して影響があるため、周辺の桑葉にかからないよう注意する。 ・本剤処理後、短期間内に後作物を作付する場合、後作物に影響をあたえることがあるので、予め発芽試験を行う等安全性を確認してから作付する。
ゴーゴーサン 細粒剤F	一年生雑草	全面土壌散布	は種後出芽前 (雑草発生前)	<ul style="list-style-type: none"> ・雑草の発生前～発芽時に有効であるが、雑草の生育が進むと急激に効果が低下するので、使用時期を逸しないように散布する。 ・イネ科及び広葉の一年生雑草に効果があるが、キク科雑草とツクサには効果が劣るので、これらの雑草の優先ほ場では使用しない。 ・土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、土壌が適度の水分を含んでいるときに散布する。 ・砕土、整地及び覆土は丁寧に行う。覆土深は2～3cm以上とする。 ・激しい降雨が予想される時には使用を避ける。 ・砂土では使用しない。
ゴーゴーサン 乳剤	一年生雑草	全面土壌散布	は種後出芽前 (雑草発生前)	<ul style="list-style-type: none"> ・雑草の発生前～発芽時に有効であるが、雑草の生育が進むと急激に効果が低下するので、使用時期を逸しないように散布する。 ・イネ科及び広葉の一年生雑草に効果があるが、キク科雑草とツクサには効果が劣るので、これらの雑草の優先ほ場では使用しない。 ・土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、希釈水の量を多めにするか降雨後に散布する。 ・砕土、整地及び覆土は丁寧に行う。 ・激しい降雨が予想される時には使用を避ける。 ・桑にかからないよう注意する。 ・砂土では使用しない。
シャドー水和 剤	一年生及び多 年生広葉雑草 クワイモ	雑草茎葉散布 又は全面散布	一年生及び多年 生広葉雑草2～5 葉期(とうも ろこし3～5葉期) クワイモ生育期 (とうもろこし5 葉期)	<ul style="list-style-type: none"> ・防除が困難な強害雑草のイチビ・シヨクヨウガヤツリ(キハマスゲ)・クワイモに高い効果を有する。 ・生育初期のクワイモに対しては効果が劣ることがある。 ・イネ科雑草に効果が期待できないので、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 ・有機リン系殺虫剤との混用及び7日以内の近接散布は、薬害を生じることがあるので避ける。 ・散布数日後、一時的に縞状の退色、生育抑制を生じる場合があるが、その後の生育に影響はない。 ・散布直後の降雨によって薬害を生じるおそれがあるので、天候に注意して散布する。

除草剤名	適用雑草	使用方法 (適用土壌)	使用時期	使用上の注意
タッチダウン i Q	一年生雑草	雑草茎葉散布	は種後出芽前 (雑草生育期)	<ul style="list-style-type: none"> 雑草の種類や大きさ、発生密度によって適正な薬量が異なるので、その程度に応じて所定量の範囲内で適宜薬量を増減する。 散布後、効果の発現までに一年生雑草では2~4日、多年生雑草では1~2週間を要するので、その間に刈り取らないようにする。 多年生雑草を地上部及び地下部まで含めて枯殺するには、雑草の生育盛期から生育終期又は開花期前までに散布する。 スギナの防除の際は、スギナが生育盛期を過ぎた時期及びスギナが他雑草に埋没している条件での散布は効果が劣ることがあるので、適期に注意して散布する。 激しい降雨が予想される場合は使用を避ける。
デュアルゴ ールド	一年生雑草 一年生イネ科 雑草	全面土壌散布	は種後出芽前 (雑草発生前) 本葉1~2葉期 (イネ科雑草2葉 期まで)	<ul style="list-style-type: none"> 雑草の発生前に散布する。 広葉雑草(特にアカザ科)が混在する場合は、それらに有効な除草剤と体系防除する。 砕土、整地及び覆土は丁寧に行う。 土壌が極端に乾燥している場合には、除草効果が劣ることがあるので、所定量の範囲内で散布水量を多めにして丁寧に散布する。 砂土では使用しない。 水稲に薬害を生じるおそれがあるため、当年または翌年の水稲栽培をさける。
バサグラン液 剤(ナトリウム 塩)	一年生雑草 (イネ科を除 く)	雑草茎葉散布 又は全面散布	生育期 但し、収穫50日 前まで	<ul style="list-style-type: none"> イネ科雑草には効果がないため、イネ科雑草が優先するほ場での使用は控える。イネ科雑草が混在する場合はこれらに有効な除草剤との体系で使用。 散布後、曇天、降雨日が長く続くと効果が劣ることがあるため、晴天時に散布する。 高温条件化では、薬害を生じやすいので異常高温化での散布は避ける。 重複散布は薬害のおそれがあるので避ける。
フィールドス ターP乳剤	一年生雑草 (アカザ科、 アブラナ科、 タデ科を除 く) 一年生イネ科 雑草	全面土壌散布	は種後出芽前 (雑草発生前) とうもろこし出 芽直前~2葉期 (イネ科雑草2 葉期まで)	<ul style="list-style-type: none"> 発芽後の雑草に対しては効果が劣るので、必ず雑草の発生前に時期を逸しないように散布する。 アカザ科、タデ科、アブラナ科などの一部広葉雑草には効果が劣るので、これらの広葉雑草の混在するほ場では、広葉雑草に有効な除草剤との体系で使用。 散布直後の多量の降雨は薬害のおそれがあるので、天候を見きわめて散布する。 砕土、整地及び覆土は丁寧に行う。覆土深は2~3cm以上とする。 砂土では使用しない。
ブルーシアフ ロアブル	一年生雑草	雑草茎葉散布 又は全面散布	とうもろこし3 ~5葉期(但し、 収穫45日前ま で) とうもろこし6 ~7葉期(但し、 収穫45日前ま で)	<ul style="list-style-type: none"> 一年生イネ科雑草、および一年生広葉雑草と幅広い草種に効果を発揮し、イチビ、イヌホオズキにも優れた効果を示す。 散布後一時的にクロロシス症状を生じることがあるが、その後の生育、収量には影響しない。 雑草生育期に有効だが、雑草が大きくなりすぎると効果が劣ることがあるので、時期を逸しないよう均一に散布する。 散布後6時間以内の降雨は効果を低下させる。

除草剤名	適用雑草	使用方法 (適用土壌)	使用時期	使用上の注意
モーティブ乳剤	一年生雑草	全面土壌散布	は種後～とうもろこし2葉期 (イネ科雑草2葉期まで)	<ul style="list-style-type: none"> 雑草の生育が進むと効果が劣るので、使用時期を逸しないように散布する。 砕土、整地及び覆土は丁寧に行う。覆土深は2～3 cm以上とする。 激しい降雨が予想される時には使用を避ける。 砂土では使用しない。
ラウンドアップマックスロード	一年生及び多年生雑草	雑草茎葉散布	とうもろこし出芽前まで(雑草生育期)	<ul style="list-style-type: none"> 吸収移行型の除草剤で非選択的にほとんどすべての一年生、越年生、多年生草本及び木本植物に作用する。 多年生雑草の中には、散布年には効果の発現が少なく、翌年の再生時期になって枯殺効果がわかるものがある。 散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わない。 通常2～7日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しない。 スギナ防除に際しては、スギナが他雑草の中に埋没しているような条件の散布では効果が劣ることがあるので、スギナにかかるように注意して散布する。 一年生広葉雑草、または多年生雑草のうちススキ、セイタカアワダチソウ等を主対象に使用する場合、もしくは生育の進んだマルバツユクサに使用する場合、所定量の範囲内で多めの薬量を使用する。 処理後1時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布する。 少量散布の場合は、専用のノズルを用いて雑草木の葉面に均一に散布する。 出芽後に散布すると薬害を生じる恐れがあるので、必ず出芽前に散布する。
ラッソー乳剤	一年生雑草	全面土壌散布	は種後出芽前	<ul style="list-style-type: none"> 土壌処理剤のため、雑草の発生前に使用する。 イネ科雑草には卓効だが、タデ科、アカザ科などの広葉雑草には効果が劣る。 砕土、整地は丁寧に行い、は種後の鎮圧も行うようにする。 有機物を多く含む土壌や粘質土では所定量の範囲内で多めの薬量を散布する。
ワンホープ乳剤	一年生雑草 多年生イネ科雑草	雑草茎葉散布 又は全面散布	とうもろこし3～5葉期(但し、収穫30日前まで)	<ul style="list-style-type: none"> 剤への適用品種に使用する。「2023年度ワンホープ乳剤の適用品種一覧」参照 一年生イネ科雑草から一年生広葉雑草、さらにシバムギ、レッドトップなどの多年生イネ科雑草まで対象とする。特に生育期のイネ科雑草をしっかり防除できる。 有機リン系殺虫剤との混用および7日以内の近接散布は、薬害を生じることがあるので避ける。 散布数日後、一時的に退色および生育抑制を生じることがあるが、その後の生育・収量には影響しない。 散布直後の降雨は、効果を低下させるので、天候に注意して散布する。

飼料作物ーソルガムー殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名	
						ア ブ ラ ム シ 類	ツ マ ジ ロ ク サ ヨ ト ウ
1	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	○	○
2	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	—

飼料作物ーソルガムーその他

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名					
						カ ラ ス	キ ジ	キ ジ バ ト	ス ズ メ	ハ ト	ム ク ド リ
1	キヒゲンR-2フロアブル		普	チウラム	-	○	○	○	○	○	○

11-(2) ソルガム

病虫害防除

病虫害名	防除方法	参考事項
紫斑点病	は種前 1. 抵抗性品種を栽培する。 2. 早まきによる早期収穫を行う。 収穫時 刈り遅れしない。 収穫後 収穫残さを除去する。	<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨時期から発生し始め、夏から秋にかけて最もまん延する。 ・赤紫色、楕円形、長さ5~20mm、幅3~10mmの病斑を多数形成する。
ツマジロクサヨトウ	生育期 定期的にはほ場を巡回し、早期発見に努める。 発生時 1. 適用薬剤を散布する。 2. 収穫可能な場合は直ちに収穫・調製を行う。 収穫後 発生ほ場の土壌中にはさなぎが残存している可能性があるため、刈り取り後は速やかに耕起して残存害虫を駆除する（複数回が望ましい）。	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤を散布するときは、幼虫の活動が活発になる早朝に、散布することが望ましい。 ・幼虫は軟らかい葉を好んで食害する傾向があるため、特に生育初期は注意する。 ・とうもろこし、ソルガム、野菜類など広く農作物を食害し、生育初期の食害では被害が甚大になるため、特に注意して発見に努める。
鳥害防止 (カラス、キジ、キジバト、スズメ、ハト、ムクドリ)	は種前 種子に薬剤塗沫処理を行う。	

雑草防除

- ・ 碎土、整地は丁寧に行い、種子が露出しないように覆土はできるだけ丁寧に行う。
- ・ 散布薬剤の飛散、あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることのないように十分注意して散布する。
- ・ 周辺の作物や構造物等にかからないように注意する。
- ・ 皮膚に付着しないように注意する。付着した場合には直ちに石けんを使用し水で良く洗い流す。
- ・ 使用後、タンク、ホース、ブーム、ノズル内に薬液が残らないよう散布器具等はよく洗浄し、他の用途に使用する場合は、十分に注意する。

除草剤名	適用雑草	使用方法 (適用土壌)	使用時期	使用上の注意
ゲザノンゴールド	一年生雑草	全面土壌散布	は種直後	<ul style="list-style-type: none"> ・ イチビ、アレチウリ、ヨウシュチヨウセンアサガオなど強害帰化雑草にも有効である。 ・ 碎土、整地及び覆土は丁寧に行う。 ・ イチビの防除を行う場合には、所定量の範囲内で多めの薬量を散布する。 ・ ソルガムに使用する場合、次のような条件下では出芽抑制及び生育抑制等の薬害を生じる恐れがあるため、使用を避ける。 土壌の種類：過湿土壌及び砂質土壌 生育ステージ：出芽直前 ・ 散布直前に降雨があった場合、また、散布直後に降雨が予想される場合は使用を避ける。 ・ 砂土では使用しない。 ・ 蚕に対して影響があるため、周辺の桑葉にかからないよう注意する。 ・ 水稻に薬害を生じるおそれがあるため、当年及び翌年の水稻栽培をさける。
ゲザプリムフロアブル	一年生広葉雑草	全面土壌散布及び雑草茎葉散布 (砂土を除く全土壌)	は種後(雑草発生前～始期)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 畑作一年生雑草全般、ツクサには特に土壌処理で効果が大きい。 ・ 茎葉部からの吸収も一部みられ、幼少雑草に対しても効果を発揮するが、雑草の発芽直前から発芽揃期までの散布が最も効果が高いので、できるだけ早めに散布する。 ・ 砂土、水はけのよい土壌では薬害を生じる恐れがあるので使用しない。また雨の多い時期、場所での使用は避ける。 ・ 覆土は丁寧に行い、覆土深は3cm程度にする。 ・ 多年性、深根性雑草には効果が期待できない。 ・ 本剤処理後、短期間内に後作物を作付する場合、後作物に影響をあたえることがあるので、予め発芽試験を行う等安全性を確認してから作付する。 ・ イネ科雑草には効果が不十分な場合があるので、それらが優先するほ場での使用は避ける。 ・ 蚕に対して影響があるため、周辺の桑葉にかからないよう注意する。
ゴーゴーサン細粒剤F	一年生雑草	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雑草の発生前～発芽時に有効であるが、雑草の生育が進むと急激に効果が低下するので、使用時期を逸しないように散布する。 ・ イネ科及び広葉の一年生雑草に効果があるが、キク科雑草とツクサには効果が劣るので、これらの雑草の優先ほ場では使用しない。 ・ 土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、土壌が適度の水分を含んでいる時に散布する。 ・ 碎土、整地及び覆土は丁寧に行う。 ・ 覆土深は3cm以上とする。また、散播では使用しない。 ・ 激しい降雨が予想される時には使用を避ける。 ・ 砂土では使用しない。

除草剤名	適用雑草	使用方法 (適用土壌)	使用時期	使用上の注意
ゴーゴーサン 乳剤	一年生雑草	全面土壌散布 雑草茎葉散布 又は全面土壌 散布	は種後出芽前 (雑草発生前) ソルガム3葉期 (雑草発生前～ 発生始期)	<ul style="list-style-type: none"> ・雑草の発生前～発芽時に有効であるが、雑草の生育が進むと急激に効果が低下するので、使用時期を逸しないように散布する。 ・イネ科及び広葉の一年生雑草に効果があるが、キク科雑草とツクサには効果が劣るので、これらの雑草の優先ほ場では使用しない。 ・土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、希釈水の量を多めにするか降雨後に散布する。 ・碎土、整地及び覆土は丁寧に行う。 ・覆土深は3cm以上とする。また、散播では使用しない。 ・激しい降雨が予想される時には使用を避ける。 ・桑にかからないよう注意する。 ・砂土では使用しない。
バサグラン液 剤(ナトリウム 塩)	一年生雑草 (イネ科を除く)	雑草茎葉散布 又は全面散布	生育期 但し、収穫30日 前まで	<ul style="list-style-type: none"> ・イネ科雑草には効果がないため、イネ科雑草が優先するほ場での使用は控える。イネ科雑草が混在する場合はこれらに有効な除草剤との体系で使用する。 ・散布後、曇天、降雨日が長く続くと効果が劣ることがあるため、晴天時に散布する。 ・高温条件化では、薬害を生じやすいので異常高温化での散布は避ける。 ・重複散布は薬害のおそれがあるので避ける。
ラウンドアップ マックスロ ード	一年生雑草	雑草茎葉散布	耕起前又はは種 前まで	<ul style="list-style-type: none"> ・吸収移行型の除草剤で非選択的にほとんどすべての一年生、越年生、多年生草本及び木本植物に作用する。 ・多年生雑草の中には、散布年には効果の発現が少なく、翌年の再生時期になって枯殺効果がわかるものがある。 ・散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わない。 ・通常2～7日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しない。 ・スギナ防除に際しては、スギナが他雑草の中に埋没しているような条件の散布では効果が劣ることがあるので、スギナにかかるように注意して散布する。 ・一年生広葉雑草、または多年生雑草のうちススキ、セイタカアワダチソウ等を主対象に使用する場合、もしくは生育の進んだマルバツクサに使用する場合、所定量の範囲内で多めの薬量を使用する。 ・処理後1時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布する。 ・少量散布の場合は、専用のノズルを用いて雑草木の葉面に均一に散布する。

除草剤名	適用雑草	使用方法 (適用土壌)	使用時期	使用上の注意
ラッソー乳剤	一年生雑草	全面土壌散布	は種直後(雑草発生前)	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌処理剤なので必ず雑草の発生前に使用する。 ・イネ科雑草には卓効だが、タデ科、アカザ科などの広葉雑草に対しては効果が劣る。 ・碎土、整地は丁寧に行い、は種後の鎮圧も行うようにする。 ・有機物を多く含む土壌や粘質土では所定量の範囲内で多めの薬量を散布する。 ・砂質土壌では薬害を生じる恐れがあるので使用は避ける。 ・は種時の覆土は3 cm以上とする。また、散播では使用しない。 ・薬剤処理は土壌表面が乾いた状態で行う。 ・激しい降雨が予想される場合は使用しない。 ・ソルガムは品種が多く、薬剤に対する品種間差もあるため、使用の際には病害虫防除所等関係機関の指導を受ける。
ロロックス	一年生雑草	全面土壌散布	は種直後(雑草発生前)	<ul style="list-style-type: none"> ・イネ科雑草が優先しているところでは、他剤との現地混用又は体系処理が望ましい。 ・処理後土の表層をこわしたり、動かしたりしない。 ・十分にかき混ぜてから均一に散布する。 ・土壌表面が適湿の 때가効果的である。 ・雑草発生前よりも発生直後の方が除草効果は安定する。 ・生育の進んだ雑草には効果が劣る場合があるので、時期を逸しないように散布する。 ・覆土は細かく碎いて均一厚めに行い、砂土では使用しない。 ・激しい降雨が予想される場合は使用しない。 ・蚕に対して影響があるので、桑葉にはかからないようにする。

飼料作物－牧草－いね科牧草－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						雪腐大粒菌核病
1	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○

飼料作物－牧草－いね科牧草－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名						
						アブラムシ類	ウリハムシモドキ	ウンカ類	ゾウムシ類	ヨコバイ類	アワヨトウ	ムギダニ
1	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	-	-	-	-	-	-
2	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	○	○	○	○	○	○	○
3	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	-	-	-	-	-	-
4	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	-	-	-	-	-	-

11-(3) いね科牧草

病害虫防除

病害虫名	防除方法	参考事項
冠さび病	は種前 1. 抵抗性品種を栽培する。 2. 厚播きしない(イタリアンライグラスでは種量は2~3kg/10a)。 収穫期 刈り遅れしない。	<ul style="list-style-type: none"> ・初めは黄色の腫れ物状の病斑であるが、やがて長さ1~2mm、幅0.5mm程度の楕円形病斑となり、表皮が破れて中から黄色~オレンジ色の夏胞子が現れる。
葉腐病	は種前 標準は種量を守り厚播きしない。 生育期 発病が多い場合、一部早刈りして通風をよくする。 収穫期 刈り遅れしない。 収穫後 刈り取った牧草は速やかに収納する。	<ul style="list-style-type: none"> ・初めは灰緑色、水浸状に葉が変色し、やがてゆでたように軟化する。罹病植物上には、明褐色~褐色、直径5mm程度の菌核が形成される。 ・高温多湿で多発し、雨が続くとまん延する。 ・株間の湿度が高まると激発する。
すじ葉枯病 (条葉枯病)	は種前 抵抗性品種を栽培する。 生育期 肥料切れを避ける。 収穫期 低刈りにし、刈り遅れしない。	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめ灰褐色~茶褐色又は紫褐色の楕円形病斑ができ、しだいに葉脈間を縦に伸びて、長さ0.5~4cm、幅1~3mmの線状の病斑を形成する。 ・春秋の多湿時や梅雨期に発生が多い。
雪腐大粒菌核病	根雪前 1. 越冬前の草丈を15cm程度にしておく。 2. 適用薬剤を散布する。 は種時 リン酸肥料を増肥する。	<ul style="list-style-type: none"> ・積雪下の葉や茎が水浸状に枯れ、融雪後乾燥すると漂白したように白くなる。 ・肥料切れは被害を助長する。 ・長期の根雪により多発する。
アブラムシ類	生育期 ほ場の風通しをよくする。 発生時 適用薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> ・4~5月及び初冬(11月頃)に発生する。 ・春先に乾燥が続くと多発する。
ムギダニ	は種前 冬作物として、早生のエンバクを栽培し、年内刈りをする事で発生を抑える。 は種後 1. 畦畔雑草を刈り取る。 2. 生息密度の上昇期に適用薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> ・乾燥時に発生しやすい。 ・深耕(プラウ耕)により生息密度の低下が認められる。 ・曇天の日や夕方以降に葉上に現れるので、防除はこの時に行う。
アワヨトウ	発生時 1. 発生初期に刈り取りを行う。 2. 適用薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> ・暴食性があり、被害が大きい。食痕が不規則な欠刻で残る。 ・発生回数は関東地方で年3~4回とされる。

雑草防除

- ・ 碎土、整地は丁寧に行い、種子が露出しないように覆土はできるだけ丁寧に行う。
- ・ 散布薬剤の飛散、あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることのないように十分注意して散布する。
- ・ 周辺の作物や構造物等にかからないように注意する。
- ・ 皮膚に付着しないように注意する。付着した場合には直ちに石けんを使用し水で良く洗い流す。
- ・ 使用后、タンク、ホース、ブーム、ノズル内に薬液が残らないよう散布器具等はよく洗浄し、他の用途に使用する場合は、十分に注意する。

除草剤名	適用雑草	使用方法 (適用土壌)	使用時期	使用上の注意
バンペルーD 液剤	ギシギシ	雑草茎葉散布	秋期最終刈取後 30日以内	<ul style="list-style-type: none"> ・ いね科牧草では種当年の雑草用には使用しない。 ・ 展着剤を加えて散布するとより効果が増す。 ・ エゾノギシギシの越冬株には薬量を多めにする。 ・ 広葉雑草のうちカタバミには効果が劣るので、それらの優占する所では使用を避ける。 ・ まめ科牧草には薬害を生じるので、まめ科牧草優占草地での使用は避ける。
ハーモニーD F	一年生広葉雑 草	雑草茎葉散布 又は全面散布	採草21日前まで (雑草生育期)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一番草刈取後(夏処理)から最終一番草刈取後(秋処理)まで幅広く使用できる。 ・ 調製した薬剤は速やかに使用する。 ・ ギシギシの葉が展開してから散布する。 ・ 新播草地定着後の散布適期はギシギシ類草丈 20 cm以下であり、生育の進んだ雑草には効果が劣るので、時期を逸しないように散布する。 ・ 散布後21日間は採草及び放牧を行わない。 ・ タンク内や散布器具に残った薬液は他作物に影響を及ぼす可能性があるため、ハーモニー洗浄剤を用いた所定の手順で洗浄する。 ・ クローバーに対して薬害を生じるので使用しない。 ・ 耐性雑草が現れるので、3年以上の連用を避ける。 ・ 砂土では使用しない。
	ギシギシ類		採草21日前まで (雑草生育期) 新播草地定着後 (但し、採草21日 前まで)	
タッチダウン iQ	一年生雑草 多年生雑草	雑草茎葉散布	耕起10日以前 (雑草生育期)	<ul style="list-style-type: none"> ・ スギナ、ススキ、チガヤ、カヤツリグサ、セイタカアワダチソウなどの難防除雑草にも高い殺草力を発揮する。 ・ 散布1時間後に降雨があっても安定した効果を発揮する。 ・ 雑草の種類や大きさ、発生密度によって適正な薬量が異なるので、その程度に応じて所定量の範囲内で適宜薬量を増減する。 ・ 多年生雑草を地上部及び地下部まで含めて枯殺するには、雑草の生育盛期から生育終期又は開花期前までに散布する。 ・ スギナの防除の際は、スギナが生育盛期を過ぎた時期及びスギナが他雑草に埋没している条件での散布は効果が劣ることがあるので、適期に注意して散布する。 ・ リードカナリーグラスに使用する場合、雑草が生え揃った時期以降に散布し、草丈の目安は20cm以上50cm以下とする。
	一年生及び多 年生雑草		は種10日前～ は種当日(耕起 整地後:雑草発 生揃期)	
	リードカナリ ーグラス		最終刈取後 (雑草生育期)	

各論作成日:2022年11月1日 必ずラベルを確認してから農業を使用してください。

除草剤名	適用雑草	使用方法 (適用土壌)	使用時期	使用上の注意
ラウンドアップ マックスロ ード	一年生及び多 年生雑草 多年生イネ科 雑草	雑草茎葉散布	耕起前まで (雑草生育期) 耕起整地後 ~ は種当日まで (雑草発生揃期) 最終刈取後：雑 草生育期	<ul style="list-style-type: none"> ・吸収移行型の除草剤で非選択的にほとんどすべての一年生、越年生、多年生草本及び木本植物に作用する。 ・多年生雑草の中には、散布年には効果の発現が少なく、翌年の再生時期になって枯殺効果がわかるものがある。 ・散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わない。 ・通常 2~7 日で効果が発現し、効果完成までにさらに日数を要するので、誤って再散布しない。 ・一年生広葉雑草、または多年生雑草のうちススキ、セイタカアワダチソウ等を主対象に使用する場合、もしくは生育の進んだマルバツユクサに使用する場合、所定量の範囲内で多めの薬量を散布する。 ・処理後 1 時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を見極めてから散布する。 ・少量散布の場合は、希釈水量に応じ、それぞれ専用のノズルを用いて雑草木の葉面に均一に散布する。 ・リードカナリーグラスに使用する場合、雑草が生え揃った時期以降に散布し、草丈の目安は 20 cm 以上とする。

飼料作物－牧草－まめ科牧草－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						菌核病
1	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○

飼料作物－牧草－まめ科牧草－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						アブラムシ類	ウリハムシモドキ	ウンカ類	ヨコバイ類
1	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	○	-	-	-
2	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	○	○	○	○
3	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	-	-	-

11-(4) まめ科牧草

病虫害防除

病虫害名	防除方法	参考事項
黒かび病	梅雨時、秋雨時 発生箇所は早期に刈り取り、ほ場外に出す。 収穫時 刈り遅れしない。	<ul style="list-style-type: none"> ・高温多湿で多発する。 ・アカクローバに発生が多い。 ・過繁茂の草に発生する。 ・葉に黒褐色、不定形の病斑が形成され、それらが互いに融合して葉の全体を覆う大型病斑となる。病斑中心部には黒い毛羽だった菌核が形成される。 ・罹病草の給与により、山羊に「よだれ症状」が発生する。
すす点病	は種時 イネ科作物と混播する。 収穫時 刈り遅れしない。	<ul style="list-style-type: none"> ・冷涼地で発生し、葉の裏側に黒いすす状のかびを生じる。 ・4月～梅雨時に発生する。 ・野生のシロクローバに発生が多い。
いぼ斑点病	収穫時 刈り遅れしない。	<ul style="list-style-type: none"> ・冷涼多湿条件で多発する。 ・褐色～黒褐色の直径1～3mmの小点が多数形成される。
茎枯病	生育期 アブラムシを防除する。 収穫時 刈り遅れしない(ただし、早期刈り取りは後に欠株を招くので行わない)。	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファルファに発生が多い。 ・冷涼多湿条件で多発する。 ・黒褐色で針頭大～ゴマ粒大の不揃いの病斑を多数形成する。 ・アブラムシの排せつ物が栄養源となる。
菌核病	は種前 1. 深耕を行い感染源を埋没させる。 2. 1ヵ月間湛水状態にする。 は種時 1. 抵抗性品種を栽培する。 2. 連作を避ける。 収穫時 刈り遅れしない。	<ul style="list-style-type: none"> ・冷涼多湿地域で発生する。 ・初め小さな斑点が現れ、やがて葉や茎が黄化、枯死する。
アブラムシ類	生育時 ほ場の風通しをよくする。 発生時 1. 早期に刈り取りを行う。 2. 適用薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファルファとクローバ類に発生が多い。 ・4～5月及び初冬(11月頃)に発生する。 ・春先に乾燥が続くと多発する。
ウリハムシモドキ	は種前 イネ科作物と混播する。 発生時 適用薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> ・乾燥気味で牧草の生育がよくない場所に発生が多い。 ・幼虫期の防除が最も効果的である。
ハスモンヨトウ	生育期 ほ場周辺の雑草を除去する(ハスモンヨトウ防除対策の項参照)。 発生時 1. 発生初期に刈り取りを行う。 2. イネ科作物と混播する。 3. 適用薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファルファとクローバ類に発生が多い。 ・発生回数は年4～5回とされる。 ・8～9月に多発する。 ・雑草にも生息する。 ・若齢幼虫の防除が最も効果的である。

雑草防除

- ・ 碎土、整地は丁寧に行い、種子が露出しないように覆土はできるだけ丁寧に行う。
- ・ 散布薬剤の飛散、あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることのないように十分注意して散布する。
- ・ 周辺の作物や構造物等にかからないように注意する。
- ・ 皮膚に付着しないように注意する。付着した場合には直ちに石けんを使用し水で良く洗い流す。
- ・ 使用后、タンク、ホース、ブーム、ノズル内に薬液が残らないよう散布器具等はよく洗浄し、他の用途に使用する場合は、十分に注意する。

除草剤名	適用雑草	使用方法 (適用土壌)	使用時期	使用上の注意
タッチダウン i Q	一年生雑草 多年生雑草	雑草茎葉散布	耕起 10 日以前 (雑草生育期)	<ul style="list-style-type: none"> ・ スギナ、ススキ、チガヤ、カヤツリグサ、セイタカアワダチソウなどの難防除雑草にも高い殺草力を発揮する。 ・ 散布 1 時間後に降雨があっても安定した効果を発揮する。 ・ 雑草の種類や大きさ、発生密度によって適正な薬量が異なるので、その程度に応じて所定量の範囲内で適宜薬量を増減する。 ・ 多年生雑草を地上部及び地下部まで含めて枯殺するには、雑草の生育盛期から生育終期又は開花期前までに散布する。 ・ スギナの防除の際は、スギナが生育盛期を過ぎた時期及びスギナが他雑草に埋没している条件での散布は効果が劣ることがあるので、適期に注意して散布する。 ・ リードカナリーグラスに使用する場合、雑草が生え揃った時期以降に散布し、草丈の目安は 20cm 以上 50cm 以下とする。
	一年生及び多年生雑草		は種 10 日前～ は種当日 (耕起整地後：雑草発生揃期)	
	リードカナリーグラス		最終刈取後 (雑草生育期)	
ラウンドアップ マックスロード	一年生及び多年生雑草 多年生イネ科雑草	雑草茎葉散布	耕起前まで (雑草生育期) 耕起整地後～ は種当日まで (雑草発生揃期) 最終刈取後：雑草生育期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 吸収移行型の除草剤で非選択的にほとんどすべての一年生、越年生、多年生草本及び木本植物に作用する。 ・ 多年生雑草の中には、散布年には効果の発現が少なく、翌年の再生時期になって枯殺効果がわかるものがある。 ・ 散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わない。 ・ 通常 2～7 日で効果が発現し、効果完成までにさらに日数を要するので、誤って再散布しない。 ・ 一年生広葉雑草、または多年生雑草のうちススキ、セイタカアワダチソウ等を主対象に使用する場合、もしくは生育の進んだマルバツユクサに使用する場合、所定量の範囲内で多めの薬量を散布する。 ・ 処理後 1 時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を見極めてから散布する。 ・ リードカナリーグラスに使用する場合、雑草が生え揃った時期以降に散布し、草丈の目安は 20 cm 以上とする。

11-(5) 簡易サイロ・ラップサイロ

病虫害防除

病虫害名	防除方法	参考事項
コオロギ	貯蔵、保管時 1. ビニールサイロの食害防止には 30cm 以上の高さの 隔障板を設置する。 2. ビニールサイロやラップサイロ周囲の雑草を防除す る。	
鳥害防止 (主にカラス)	貯蔵、保管時 テグス等の糸を張る。	・鳥害が著しい場合を除いて防鳥ネット、網等で 覆うことはネズミ害を助長する。
野そ	貯蔵、保管時 1. ラップサイロ間隔は 50 cm以上とし、見通しを確保 す る。 2. ビニールサイロやラップサイロ周囲の雑草を防除す る。	・ラップサイロの下にパレットやスノコ、タイヤ 等を敷くと被害を助長する。